

# 創価学会破壊を目的とした 日顕らの謀略・「C作戦」

日蓮大聖人の弟子としての使命に燃え  
師と共に世界広布に飛翔しよう

日顕宗では、今回の問題の発端は池田名誉会長の十一・一六スピーチ（平成二年十一月十六日）にあると、事実上反したデマを流している。なんとしても日顕の謀略性を裏に隠し、創価学会側が仕掛けた混乱であるとしたいのだ。

だが真実は、日顕を筆頭とする宗門首脳は、信徒団体破壊の謀略である「C作戦」を、平成二年七月の時点ですでに策謀していたのである。

平成二年七月十六日、東京都文京区西片にある大石寺東京出張所において、「C作戦」実行の可否をめぐる謀議がおこなわれた。

会議の出席者は、日顕、総監・藤本日潤、庶務部長・早瀬義寛、渉外部長・秋元広学、大石寺主任理事・八木信瑩、参議・河邊慈篤、海外部主任・関快道の七名。

この会議のあいだ中、日顕は興奮し激しい口調で池田名誉会長を罵り、「池田追放」を叫んだという。しかし、総監の藤本などから慎重論が出て、結論が出ないままとなった。

二日後の七月十八日、『西片会議』出席と同じメンバーが大石寺大書院に集まり、『御前会議』が開かれた。この会議において日顕は、創価学会

破壊の謀略作戦の名称を、「それは「C」だよ」と明かしたという。「C」とは、日顕がかつて洩らしたように、「CUT」の頭文字である。  
日顕はこの会議において、「C作戦」の七月決行を主張して譲らなかつたと言われる。しかし結論は出ないまま会議は終了した。

七月二十五日、日顕は関快道に「C作戦」の延期を告げる。「C作戦」の七月決行を延期した日顕は、虎視眈々とその決行の時機を待っていた。

開創七百年を創価学会の手を借り無事済ませた日顕はついに、十一月十六日の池田名誉会長のスピーチに言いがかりをつけ、「C作戦」決行の挙に出た。その後「C作戦」にのっとり、池田名誉会長を総講演職より罷免し、創価学会破壊の謀略を進めたのだ。

日顕は、本年（平成五年）一月六日の末寺住職・寺族初登山会において、「C作戦は絶対でない、あれは学会の策謀だ」などと述べている。

日顕がこの期に及んでも否定しなければならぬほど、「C作戦」は謀略そのものなのである。だが「C作戦」の存在は、日顕宗内でも、いまでは常識である。日顕はそれなのに見え透いたウソをつき、ますます信望をなくすのである。

## ◆福田毅道が久野健氏にFAX送信した「私信」より一部抜粋

昨年7月末に頓挫したC作戦の案文を夜間一人切りでワープロで清書しつつ、この海外部の事務室で1時間以上、涙を流し、泣きました。私が知っている学会員の一人ひとりの顔が目に見え、生まれてから40年間のうちで、最も長い時間にわたって、泣きました。またその数日後、7月8月のC作戦の中止のために裏切らざるをえなかった人々のことと思出し、都内のホテルの一室で大声をあげて泣きました。



元海外部書記の福田毅道。

## 解説

福田は自分が創価学会破壊の謀略「C作戦」の案文をワープロで清書したこと、平成2年7月～8月に実行するはずだったことを明かしている。

今回の池田創価学会問題に関し、私見ではありますが、御通告させていただきます。

経路の事師たちは、日本の最高学府を卒業した優秀なエリートではありますが、それであるがゆえに、学会員の全般的な知的レベルの査定および日常的な感情の微妙な動きに対する予測を大いに誤ったと言ふべきです。また、学会がマンモス教団であるがゆえに、統制が多少乱れているようにも感じます。作戦の下準備の不足は隠しようがありません。宗会議決以来の作戦本部からの指令は、未熟で投げ出し、思いつきで、AD HOCなものばかりではありませんか。少なくとも、私にはそう思われてなりません。なぜもっと充分に下準備をして、完璧に学会員を洗脳してから、宗門に対する戦争を始めなかったのでしょうか。

今の時点で、はっきりと確信をもって断言できることは、今後、いかなる戦局の展開状況になろうとも、従来行なわれてきた「偽りの僧俗相合・協調路線」の復活は絶対にありえないということ。それは覚悟して下さい。たとえ池田大作氏が投降しても、学会組織は壊滅します。また、そのように私は行動していきます。

閑話休題。昨年の暮に、サントリーホールへ初めて行ってきました。マラーの2番と6番を当日券で聴きました。ケルン放送交響楽団・ベルティニ指揮のやつです。久野さんか西野さんが来ているかと思ひ、何度もホール内の席席を見回しました。マラー独特の和音と最強音を体感し、非常に満足いたしました。今年、またベルティニが来日するときは、必ずマラーの6番を聴くつもりです。西野さんは必ず行くでしょうね。ベルティニは6番が18番(細い)だそうですから。例の第9の件は、私が数学部のスタッフの一人に言ったのがきっかけだと思います。あの vor Gottl の大合唱部分までは歌わないでしょうけど、やはり信心の会合の席で歌うのはまずいと思います。また、何か度です。Goetterfunken については、あれはどう考えても、「神々 (jiji) しい火花」ということであって、神々 (材料) ではないと私は思います。SGI の優秀なドイツ語スタッフに御確認下さい。いずれにせよ、あのシラーの詩の背景は、キリスト教の神であって、むしろそうでないとしても外道の神 (あるいは神々) でしかないのではありませんか。

そういえば、マラーの2番もキリストの復活がテーマでした。私は、ブルーノ・ワルターのが、武骨ながら、最も深い解釈の演奏であると信じています。是非、お聴き下さい。マラーの1番の第4楽章をブルーノ・ワルターで聴いたら、もう他は聴けません。絶妙のテンポ・バルバートです。(モーツアルトの40番、然り!) パーンスタインは駄目です。彼はマラーの音楽というものを全然理解していません。

さて、本題にもどります。今回の宗教戦争は、今月中に終結すると私は考えます。どちらが勝利するかは明々白々です。邪はそれ正に勝つまいからです。曲は直に勝算の、ということです。この戦争は、お金対お金の戦争でなければ、人海による戦争でも

- 2 -

久野さんがイギリス・ロンドンのナショナル・アート・ギャラリーで、ダウミンチの「世界で最も美しい女性」のダッチャン画を見て、長い時間、立ち尽くし、その場を去ろうとせずに、しばし涙ぐんでいたのを私は目撃しております。あの久野さん姿を一生涯、私は忘れることができません。真の芸術の与える感動の大きさを、久野さんは姿をもって私に教えてくれましたね。このことを私は久野さんに死ぬまで感謝し続けます。

久野さん、村井さん、西野さん、岩沢さん、浜口さん、堀さん、黒袋さん、そして山崎誠成、金田理事長、コーストン理事長、野口理事長、キーン理事長、カラブラ理事長、ウィリアムス理事長、大信田理事長等々、-----みんなすばらしい方々ばかりでした。

しかし、池田大作氏の御法主日願上人陛下への誹謗と宗門攻撃という誘法行為により、みなさんが宗門の底に落ちていくことを看過するわけにはいきません。私の知っている、学会・SGI の幹部および職員の方々、そしてすべての学会員を救うために、すでに私は池田大作氏・学会本部・SGI に対する総攻撃を開始しました。

以上、私文乱筆をお許し下さい。見返す暇がありませんので。

平成3年1月2日 福田 毅 道

追 伸  
「真実究明」の三空一体の御法門を、よく研究されることを希望します。

まずは事務的な件から言いますと、私の見るところでは、来たる2月度のヨーロッパ出張御授戒は実施不可能です。また、1月7日に予定されている学会本部での打合せは、実現不可能です。少なくとも、私個人としては、担当を辞退させていただきます。なお、老練心ながら申し上げますが、現地へ早目に連絡をしてあげないと、現地メンバーが非常に落胆し、苦しむことと思います。またさらに、今後、SGI の要請により海外での出張御授戒・御本尊下附は一切なくなる、私は思っていますので、早目に手当をしておかれるほうがいいと思います。(御本尊に代わる信仰の対象物、従来茶の指導をいかに合理的に否定し、新しい教義 [=新思考] を作り、メンバーの冠婚葬祭をどのように在家教団として処理していくかの問題等々をお考え下さい。)

私としては、池田大作氏が今回のような宗門攻撃の暴挙に出たことを、非常に残念に思うとともに、日蓮正宗の僧侶として断固として、大聖人様の出世の本懐たる戒律の大御本尊様と大聖人様以来の血脈付法の御法主日願上人陛下をおぼしめし、あなたが敬愛してやまない池田大作氏とその眷属たる秋谷氏等の大幹部を徹底して糾弾していきたいと思っております。また、国内の創価学会組織のみならず海外のSGI 組織についても、徹底して切り崩し、破壊してまいります。また特に、久野さんに対しては、アジアのSGI 組織の徹底破壊を開始することをお知らせいたします。韓国と台湾はお気をつけ下さい。岩沢さんにも宜しくお伝え下さい。月並みで陳腐な表現ですが、私はSGI と久野さんに裏切布告いたします。このお手紙に対し、何ら回答がない場合、受けて立つということであると解釈いたします。

池田大作氏は、日蓮正宗の信徒として「禁断の果実」である「御法主上人陛下の血脈」を冒瀆し侮辱し否定するという、償じられない悪行を行ないました。「禁断の果実」を食べた者は茶園から去らねばならないという外道の説は、今回の場合にも当てはまるように強く感じられてなりません。

現在の戦況を客観的に見て、私は次のように感じています。八尋弁護士を中心とする参

- 1 -

なければ、策略・謀略による知的頭脳プレーの戦争でもありません。宗教的信念対宗教的信念の戦争なのです。そのことを、池田大作氏、学会本部、SGI 本部の方々、は根本的に認識を新たにするべきであります。池田大作氏および学会・SGI の勝利は永遠にありえないということを深く認識すべきです。SGI では、池田大作氏の海外遠征の準備を、恐らく、始めていることと思います。まずはどこですか。アメリカですか、フランスですか、イギリスですか。地元メンバーに何と書いて説明するのですか。異議と息子たち、そして第一席席の面々、大所帯ですね。随行は誰ですか。高橋英明さんですか。航空券の手配はもうお済みですか。JTB の細川さん、正月早々大変ですね。

秋谷宗之助氏は、大丈夫ですか。お目通り作戦に失敗しましたね。池田大作氏はさぞ御立腹のことでしょう。あまり落ち込まないように、みなさんに励ましてあげて下さい。秋谷氏のメッセージが跳み上げられ、会合が開かれていますが、何か学会員は白けているようですよ。池田大作氏の時代感覚が現実と多少のずれがあったようですね。参謀の方々の責任は重大ですよ。

久野さんは、この前出張御授戒のとき、私に、「SGI は何でも知っている」と言っていましたね。ですから、前原もなしに、一つのエピソードを紹介いたします。実は、例の昨年7月末に頓挫したC作戦の案文を夜間一人切りでワープロで消滅しつつ、この海外部の事務室で1時間以上、涙を流し、泣きました。私が知っている学会員の一人ひとりの顔が目につく、生まれてから40年間のうちで、最も長い時間にわたって、泣きました。またその数日後、7月~8月のC作戦の中止のために裏切らざるをえなかった人々のこと思い出し、都内のホテルの一室で大声をあげて泣きました。現在の学会の状況は、私が予想していた、C作戦によってもたらされる地獄絵図とはかなり違っているの、やや安堵を覚えています。池田大作氏と学会本部は、この劣勢状態をどのように打開するつもりでしょうか。まず無理ではないでしょうか。新聞およびマスコミは、冷静に、老練的に観察していますよ。ブラジルならいざしらず、純然たる法治国家である日本国内で、買収と違法行為による突撃口切り開きは許されせんよ。まず、朝日の系列以外のマスコミは近々、一斉に池田・学会問題をトップ記事として連載し出すでしょう。国鉄行の件も、道徳金は、昨年末の時点で280億だそうですね。池田大作氏の個人資産の解明にまで進み始めたら、国鉄行に大拍手を送りたいと思います。

\* \* \* \* \*

- 4 -

< 目 的 >

この計画作戦の目的とするところは、池田名誉会長を総講頭職から解任し、日蓮正宗は創価学会とは無縁の宗教団体であることを一般世間に公表し、創価学会組織の徹底壊滅を図り、もって純粋なる信仰に基づく金瓶無欠の組織の再編成を目的とする。

< 作戦次第 >

**第一段階**（平成2年8月28日、臨時宗会において議決する。）

必要なる宗規の改正。【R158条、R223条、R226条、R227条、R228条】

**第二段階**（平成2年8月13日、連絡会議の席上で通告する。同日、宗務院の指示により、全国末寺御講において、三宝の権威の称揚と信徒の三宅攝依の職務を内容とする統一法話の実施。）

池田名誉会長の総講頭職からの解任ならびに創価学会最高幹部への通告。

(1)日蓮正宗管長名の免辞令の発行。（手渡し。即日、附け書提出。）

口上書（案）

「貴殿におかれては、長年にわたり法華講総講頭の要職を務められ、誠に御苦労様でございました。本年、開創700年にあたり、新時代の広意流布は新体制のもと、新たな前進を開始したいと思います。ここに御書一部を贈呈し、感謝の意といたします」

(2)創価学会最高幹部への通告。【秋谷栄之助会長および森田…哉理事長宛】  
（手渡し。回答期限：8月20日正午。）

通告書に盛り込むべき内容（案）



[できるだけ学会側が受け入れ難い内容とすることが望ましい。]

- ①「このたび、御法主口頭上人現下におかせられては、総本山大石寺開創700年を迎え、新体制のもと新たな広宣流布の前進を開始したいとの決意を表明されました」
- ②「そして、池田名誉会長には、法華講秘講職を勇退していただきました」
- ③「今後、創価学会においては、日蓮正宗の外護団体として宗教法人創価学会の規則に忠実に従い、会長および理事長を中心として、宗門と一体となって興会の運営をしていただきたいと存じます」
- ④「今後、池田大作氏は、名誉会長の称号のみの立場の人となっただき、宗門から教導を求めないかぎり、自宅にて待機願います」
- ⑤「池田大作氏に対する給料については、従来通り、支払ってよろしい」
- ⑥「第一庶務は、解散することを命じます」
- ⑦「創価学会の法人責任役員の過半数を、日蓮正宗管長の指名する僧侶が占めることを命じます」
- ⑧「宗教新聞等の学会発行の新聞・雑誌には、今後一切、池田名誉会長に関する記事を掲載することを禁止します」
- ⑨「創価学会の中央会議、本部幹部会等の主要会議には、必ず宗務役員の出席を願い出ることを命じます」
- ⑩「各都道府県ごとに、宗創一体となる連絡会議を、月1回、必ず開催することを命じます」
- ⑪海外組織については、宗務院海外部の直接指示に従うよう命じます。

◎この時点で、学会側が全面的に宗門からの通告を受け入れるならば、当作戰は完了・終結する。しかし、学会側が上記通告をすなおに受け入れる可能性はほとんどない。また、学会側が部分的に受け入れたとしても、それは宗門として納得できないものであろう。ゆえに、宗門としては、次ぎの段階に進まざるをえない。

### 第三段階

(1) 8月20日正午、宗務院内に仮称「緊急時局対策本部」を設置し、日蓮正宗管長による事態集積宣言の日まで、宗務院の一切の権限ならびに作戰指示の一切の権限を当本部に委譲せしめる。

(2)日蓮正宗管長名により、宗内一般に対し、また創価学会に対し、「創価学会は日蓮正宗とは無関係・無縁の団体である」と宣言する。さらに、同日、宗務院において記者会見を開き、テレビ・ラジオを通して日本国民一般に対して宗門の立場の正当性を訴える。

(3)創価学会員には、本人の意志を尊重し、自由に、宗門あるいは学会のいずれかをとるか選択させる。宗門を選択した場合、各末寺に信徒名簿を提出させるとともに、学会へ脱会届を提出させる。(宗務院作成の規定書類を使用。)

(4)以上の経過を日本国民一般に説明する声明書を、日蓮正宗管長名により、朝日・読売・毎日・サンケイの4新聞の全国紙面1ページに3日間連続(9月28・9月30・9月4日)で掲載する。

(掲載費用:1億2千万円。これにより、ほとんどの学会員が事態の経過を把握するものと思われる。従って、数日を経ずして、大量の学会員【数:10万人~20万人】が各末寺に信徒登録のために殺到するはずである。)

(5)事態の沈静【攻撃開始後1~2年(?)】を待って、寺院に所属する元学会員信徒を組織化し、地区単位の連絡網を完備し、日本全土におよぶ連合会組織を作り上げる。

(6)海外組織については、国単位で、宗門側につくか学会側につくか選択させ、海外部が直接、掌握・管理・指導する。

### C 作戦遂行に際して考えなければならない事項

1. 日本および海外における学会員(公称約1,000万人、実質150万人~200万人)の80%~90%、すなわち120万人~180万人の学会員の、宗門および御法上人現下に対する不当な激怒・怨念・憎悪の人心を、マスコミ等の手段を使って、沈静させること。
2. 法治国家とはいえ、犯罪実行以前に、宗教的怨念に燃えた狂人として牢獄に閉じ込めることは認められないゆえ、かなりの数の末寺(あるいは本山)の住職・寺族に狂人学会員に暴行・殺害される殉教者が出るのが予想される。また、現下および宗門役員ほど、狂人学会員のターゲットになりやすいので、長期にわたり警護に万全を期さなければならない。

